

長谷川 佳彦

法学研究科・教授

【研究】

今年度はまず、抗告訴訟と当事者訴訟をめぐる日本の第2次世界大戦前の議論状況を分析した論文を公表した。また、民商法雑誌161巻6号に、最一小判令和7年2月27日の評釈を執筆した。その他、これまでの研究実績により依頼されて、公法研究86号に、令和6年6月から令和7年5月までの行政救済法分野に関する学界の動向を回顧した論稿を執筆した。

【教育】

法学部において「行政法2」、「行政法3」、「演習1・2」を、法学研究科において「行政法1・行政法特殊講義2」、「公法の基礎」(全14回のうち1回担当)を、高等司法研究科において「行政法応用」(2クラス分)、「連携講義(行政法発展演習)」(全8回のうち2回担当)をそれぞれ担当した。

【管理運営】

部局内においては、法学研究科副研究科長(学務担当)、法学研究科運営委員会委員、人事委員会委員、施設マネジメント室長、法曹コース連携協議会会長、計画室員、および評価室員を務めた。全学においては、入試センター兼任教員、および蛋白質研究所研究倫理審査委員会委員を務めた。

【社会貢献】

大阪府公文書館運営懇談会委員、大阪市行政不服審査会委員、および吹田市公平委員会委員を務めている。また、令和7年6月まで吹田市入札等監視委員会委員を務めた。